

事前計画書

1. 届出により病床を設置する理由

出産は多い月少ない月と偏りがあり、既存の病床 13 床では不足することがあります(表 1)。その場合は病床確保のため、多目的ホールや外来の部屋を調整し臨時の病床として使用しています。

出産を無事に終えて育児のスタートを始める場所が臨時の部屋という申し訳ない状況が度々訪れます。また医療スタッフも病床の確保や調整、退院した部屋への転室作業などに時間を割いている現状があります。

表 1 に示した近年 5 年間の分娩件数と病床使用状況、切迫早産や悪阻、新生児の黄疸治療などの管理入院が毎年一定数いる現状を考えると、2 床増床し 15 床の病床を確保したいと考えております。

平成元年に建設した現在の診療所は、建物や配管の老朽化による改修工事が多くなり既定病床が使用できないことも増えたため、現在隣接する土地に増築工事を行い、診療・療養機能を移設する予定です。この機会に増床することで確実な病床の確保と療養環境の改善を目指したいと考えています。

(表 1) 分娩件数と病床の使用状況

	総数	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
2017	648	14.4	12.6	10.4	12.6	14.2	13.4	16	15.8	14	11	12.4	12
2018	598	13.4	10.8	10.4	11	11.6	11.8	15	13.8	12.6	14.2	13.4	10.4
2019	613	10.4	10.8	13	14.4	11	14.8	15.4	15.4	11.6	15.8	11.6	10.4
2020	556	12.8	12	14.2	8.4	10.8	10.8	11.2	11	12.8	8.6	11.2	10.8
2021	572	11	9.6	12.4	9.8	7.8	11.4	14.8	14.6	11.6	7	15.8	13.2

計算式 月の分娩件数×6 日(5 泊 6 日と考えた場合)÷30 日(365 日÷12 か月=30.4)

2. 病床を設置する必要性(地域において将来的に必要とされる病床数及び病床機能との関係)

当院は「地域で妊産婦を支える取り組み」として市町村が実施している「産後ケア事業」を令和 3 年より委託され、積極的に取り組んでいます。令和 3 年は延べ 62 組、令和 4 年は 11 月時点で 108 組の母子が利用しています。実施方法はデイサービス型で、12 時から 15 時の 3 時間コースと 12 時から 17 時の 5 時間コースがあり、個室病室を利用して実施しています。

利用目的は母親の休息が最も多く、自宅だと何もせずにゆっくり休むことが難しく精神的にも休めないと話す母親達が、信頼できる人に赤ちゃんを預けて休みたい、ゆっくり食事や入浴をしたいといった理由から利用しています。赤ちゃんの祖父母にあたる世代は現役で働いていることが多いため、昔であれば祖父母にケアしてもらっていた産後の支援を求めているように感じます。

希望者は多く令和 3 年は稼働率 92.5%でしたが、産後ケアが周知されてきた今年は稼働率 100%で毎月キャンセル待ちがいる状況となっています。

また近年は産後にメンタルの変調をきたす方が増えています。これは赤ちゃんとの生活への適応に苦慮している場合であると推測され、入院中にきめ細やかに育児支援を行なう必要性を感じており、人手を割いて関わるようにしています。しかし限られた入院期間では対応しきれないと感じる方も増え、いずれ

は育児支援やメンタルサポートを目的とした産後ケアの利用も増えていくのではないかと感じています。産後ケアは母親の気持ちに寄り添い、母親の役割だけでなく一人の女性であることを楽しむ時間もサポートすることで、子育てが楽しいと思えるように支援していく場所として今後ニーズが増していくのではないかと感じます。

周産期医療の課題として 妊産婦の死亡原因 1 位が産後うつによる自殺である、子どもへの虐待が増加し全虐待死亡数の 6 割が 0 歳児である などがあります。これらの課題に取り組むためにも妊娠中から産後まで切れ目のない継続支援が必要とされており、産後ケア事業は今後も大きな役割を担うものと思われま。す。今後は少子化の影響で出生数は減少していく見通しですが、産後ケア事業での病床使用は増えていくと予想されるため病床の確保が必要であると考えます。

3. 当該診療所が地域で担う役割（提供している医療の内容等）

2015 年から 2021 年までの当院の出生数と盛岡市、盛岡保健医療圏、岩手県 の出生数の推移をまとめました（表 2）。当院の出生数は 2015 年 631 名でしたが 2020 年には 556 名に減少しました。しかし出生数からみた当院の割合をみると、2015 年 盛岡市 26.1%、盛岡市保健医療圏 17.4%、岩手県 7.2%でしたが、2020 年 盛岡市 29.4%、盛岡保健医療圏 19.3%、岩手県 8.3%と増加しています。

その理由として近隣の分娩を取り扱う有床診療所が医師の高齢に伴い閉院したこと、担当医が変わることなく関係構築ができる安心感、コロナ禍であった数年は感染対策が厳格な病院より融通が利く診療所が選択された可能性 などが考えられます。

分娩を取り扱う有床診療所は医師の高齢化に伴い今後も減少する予測です。しかし継承者がいる当院は地域のローリスク分娩に対応する機能、女性の生涯かかりつけ医としての機能を維持することができ、今後も地域の周産期医療や地域医療に貢献できると考えております。

令和元年 日本医師会の有床診療所委員会答申によると、「産科有床診療所は妊婦と医師の顔が見える関係を構築でき、分娩時のアメニティにも工夫がなされやすいため、分娩時の妊婦の満足度が高い。次回の分娩意欲にもつながりやすく、少子高齢化にも貢献しやすい」と記されています。

当院の近年 5 年間の医療スタッフ雇用定着率は 87.5%で、勤続 10 年以上が 64%を占めています。医師だけでなく顔見知りの助産師や看護師のもと出産できることもメリットであると考えます。

また日本助産評価機構で認証されたアドバンス助産師が 8 名在籍しており、母親教室運営や助産師外来、母乳外来などで専門性をいかして働いています。

（表 2）当院、盛岡市、盛岡保健医療圏、岩手県 の出生数の推移

住民基本台帳より

	当院 出生数	盛岡市	割合 (%)	盛岡保健 医療圏	割合 (%)	岩手県	割合 (%)
2015 (H27)	631	2416	26.1	3629	17.4	8814	7.2
2016 (H28)	598	2261	26.4	3473	17.2	8341	7.2
2017 (H29)	648	2258	28.7	3408	19	8175	7.9
2018 (H30)	598	2105	28.4	3151	18.9	7615	7.9
2019 (R1)	613	2014	30.4	3025	20.3	6974	8.8

2020 (R2)	556	1890	29.4	2874	19.3	6718	8.3
2021 (R3)	572	1952	29.3			6472	8.8

4. 届出病床設置計画

(1) 届出病床設置に伴う工事等の計画

○診療所を（ 新築 **増築** 改築 一部用途変更 ）して届出病床を設置。

資金計画	事業費	建築費	土地購入費	機器購入費	その他（備品）	合計
		設計 解体含む 4 億 5 千万	7 千 2 百万	1 千万	3 千万	5 億 6 千 2 百万
	財源	自己資金	借入金	補助金	その他（ ）	
		1 億 3 千 2 百万	4 億	3 千万		5 億 6 千 2 百万

(2) 診療所の運営計画（雇用計画、診療所運営計画、その他の医療機関との連携など）

①医師 2～3 名体制への準備

現在医師 1 名体制ですが将来は親族への事業継承を進める方針です。そのため継承者は総合周産期母子医療センターと地域母子医療センターにて経験を積んでいるところです。

②若手スタッフの採用

文書内でも述べたように当院は勤続 10 年以上の医療スタッフが 64%を占めているため、徐々に高齢化が進んでいく予測です。そのため順次スタッフの若返りも視野に採用を進めていく方針です。

③電子カルテや IT サービス導入による現代社会にマッチした体制の構築

増築した建物に診療機能に移設する際には、電子カルテを導入して業務の効率化やペーパーレスを進める予定です。

また現在進行中ですが産婦人科専用の IT サービスを導入し、紙の配布物や掲示物をデジタル表示へ移行し、スマホで閲覧できるように進めていますし、自宅でいつでも復習できるように動画による保健指導の提供や妊婦健診時のエコー動画の閲覧サービスなども進めています。

④安心安全な医療提供のため、総合・地域周産期母子医療センターとの連携強化

晩婚による出産年齢の高齢化などからリスクの高い分娩が増えています。

それに伴い母体および新生児の救急搬送の件数も増加傾向です。

当院の母体および新生児の救急搬送件数は平成 29 年（2017）19 件、平成 30 年（2018）23 件でしたが、昨年令和 3 年（2021）は 30 件、今年は 11 月時点で 32 件と増加傾向で「周産期救急搬送コーディネーター」による搬送調整をしていただきました。

妊娠や出産の経過中にハイリスクへ移行してしまう方は残念ながら一定数いらっしゃいます。ですが重症化する前に紹介や搬送ができるよう今後も連携を強化してまいります。

医療法人 黒川産婦人科医院 2021 年 分娩取り扱い件数

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	総数
自然分娩	46	34	46	35	33	41	54	52	51	26	59	51	528
吸引分娩	1	4	6	3	2	4	2	7	1	3	3	4	40
帝王切開	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	4
総数	47	38	52	38	35	46	58	59	53	29	62	55	572

当院の 2021 年に取り扱いました分娩の件数は 572 件（22 週以降の死産 2 件含まず）です